

# あなたと博物館

松本市立博物館ニュース No.190 2014.1.1



始祖馬化石(複製)  
四賀化石館



古墳出土の馬具と  
古代馬イラスト・考古博物館

## 午馬ウマがいっぱい

今年<sup>えと</sup>の干支にちなんで、博物館が収蔵する資料から、馬に関するものをご紹介します。さらなる飛躍に向けて駆けるひづめの音が、聞こえてくるようです。



飾り柱掛け時計(部分)  
時計博物館



ぼんだいあたま  
張り子の馬(福島の磐梯熱海)  
松本民芸館



戸田光年(藤原光年)筆「馬の図」  
松本市立博物館

もくじ 誌上博物館 ◆ 学都松本の礎—近世・近代、学びの場

- ◇「崇教館の歴史を探る～松本にあった藩学～」…………… 2
- ◇「開智学校からはじまった近代の学び」…………… 3
- ガイドコーナーはんでんぼく …………… 4

松本市立博物館を無料開館  
します。当日は友の会により、だるまや  
福あめなどの初売りをおこないます。  
**1月3日は博物館へ行こう!**  
【開館時間】午前9時～午後3時

## 学都松本の礎 — 近世・近代、学びの場 「そうきょうかん 崇教館の歴史を探る ～松本にあった藩学～」開催によせて

### 1 はじめに

漫画『おれは直角』の舞台となった萩藩(山口県)・明倫館、早稲田大学の創始者で内閣総理大臣にもなる大隈重信の学んだ佐賀藩・弘道館、横井小楠・井上毅・元田永孚といった明治維新を思想的にリードした人物や明治政府の制度、思想的な骨格を作り上げた人物を数多く輩出した熊本藩・時習館等、全国には有名な藩校があります。また、佐久間象山が創設に関わり、教授として教えた松代藩・文武学校、近代音楽教育等の第一人者であり、師範学校制度の創設に尽力し、東京師範学校の校長となる伊沢修二らを輩出した高遠藩・進徳館等、県内にも全国に知られる藩校がありました。

そして、松本にも藩校が存在しました。「崇教館」と呼ばれていたと推定されています。この藩校は、初代文部次官として帝国大学令や中学校令の公布に携わり近代日本の高等教育制度を築いた辻新次や、県歌『信濃の国』の作者・浅井洌を輩出しています。

### 2 崇教館の設立を探る

藩校とは、文字通り江戸時代に諸藩が藩士を教育するために設けた学校です。後には下級武士、庶民に開放される学校も現れますが、多くの場合、上級武士の子弟を対象としていました。江戸時代後期から全国各地に設立されるようになり、その数は200を超えたといわれます。

松本藩では藩主水野家の時代、学問所設置等の大規模な事業や、著名な教師は確認されていません。水野家の次代、志摩鳥羽藩から松本藩へ移った戸田氏のもとでは、教場の設置・整備・著名な学者の招聘といった動きが見られます。戸田家は、歴代学問を好み、美濃加納藩主の時代にも山崎闇斎や林羅山といった高名な学者に学んだ人物が家中にいて、藩士の子弟の教育にあたっていました。

崇教館は、戸田家の代に築かれたとされています。この時代の城内を描いた絵図には、上級武士の邸宅に隣接して「御学問所」という記載があり、現在の日本銀行松本支店の北側、松本市役所本庁舎が所在するあたりの柳町通りに面して存在していたと推測されています。この場所には現在、日露戦争の日本海海戦で有名な元帥海軍大将・東郷平八郎の筆による「明治天皇聖蹟」碑があり、この地が師範学校、中学校、松本女子職業専門学校、そして「崇教館」の旧跡であることが示されています。

また、松本市立博物館には崇教館の内部を描いた図面があり、教場の様子を知ることができます。

### 3 崇教館の学びを探る

さらに、松本市立博物館は、崇教館の教科書の印刷に使用されたと推測される『中庸』の版本を所蔵しています。『中庸』は古代中国の思想家・孔子を始祖とする儒学の文献の中でも、最も重要な『四書』と呼ばれる教典の一つで、「過不足なく偏りのない徳」を説いたものです。

また、松本市中央図書館には「崇教館文庫」という名称で、崇教館で使われた教科書と思われる文書を含む、膨大な文書群が所蔵されています。中には「水戸黄門」としてお馴染みの、水戸徳川家2代藩主の光圀が編纂を始めた歴史書『大日本史』の写本と推測される文書もあります。

このように、崇教館に関連するとされる史料は各所にあり、藩士の子弟が学んだ内容の一端をうかがうことができます。

### 4 おわりに

崇教館の足跡や授業をうかがい知ることができる史料についてふれましたが、実は、藩校がいつ出来たのか、どのような営みがあったのか、松本藩にどのような影響をもたらしたのかといった様々な問題はよく解明されていません。崇教館は、謎多き学校なのです。「崇教館」という記述も、史料の中からほとんど見出すことができません。しかし、本展をとおして松本藩士の子弟たちにも学びの場があったこと、そして、そこで使用されていた教科書と推測される文書が現在も残されているということを皆様にご存知いただければ幸いです。そして現在、学都松本には松本市立博物館の活動を含め、多彩な学びの場が豊富にあります。本展を機に、江戸の学びを知り、私たちの周りにある学びの場を見つめなおしてみませんか。

(松本市立博物館 学芸員/草間厚伸)



版木「中庸」  
崇教館の教科書として  
使われたと考えられる  
「中庸」の版本。

学都松本の礎 — 近世・近代、学びの場  
「崇教館の歴史を探る～松本にあった藩学～」

2月1日(土)～3月16日(日)

[会場] 松本市立博物館2階特別展示室 [観覧料] 通常観覧料

## 学都松本の礎 — 近世・近代、学びの場 重文旧開智学校「開智学校からはじまった近代の学び」

「私共は不幸にして学校へもあがらず、子守に参りましたが、先生や御主人のおかげ様で文字や子供のしつけ方などおしえていただき…」

これは子守教育所卒業式での答辞の一節です。子守教育所は、明治32年（1899）に学校に遊びに来ていた子守奉公の子どもたちに、“幾分の教育を加えたい”という教育熱心な若い教師の思いからはじまったといえます。

この子守教育所に代表されるように、開智学校には様々な教育のための施設が誕生し、教育に関する多くの取り組みが行われてきました。子どもたちのためにという教員の思いから生まれたこれらの施設や取り組みは、現在もその多くが松本の学びを支えています。重文旧開智学校では、開智学校からはじまった事柄を取り上げ、学都松本をけん引してきた開智学校の歩みを紹介します。

### ❶ 開智学校からはじまった教育施設

私たちの松本市立博物館が開智学校の中に誕生したことはみなさんご存知でしょうか？このほかに開智学校から派生し独立した施設をあげると、源池・筑摩・清水・旭町などの各小学校をはじめ、松本市中央図書館、松本市立松本幼稚園、松本美須ヶヶ丘高等学校、松本深志高等学校、信州大学教育学部附属松本小学校、松本盲学校などがあります。これらは時々の教育課題の解決を図るため誕生したものが多く、学校の教育環境の向上を願う教師たちの思いの表れでもあります。

その一つ、中央図書館の前身の開智書籍館しよじやくの設立の目的をみると、「学科ノ何タルヲ問ハズ須要ノ書籍ヲ蒐集シ館員ヲシテ学術研究ノ便利ヲ得セシムルニアリ」とあります。当時の校長寄藤好実よしかた よしよしが、教員は広く新しい知識を要するが、薄給などで新著を読むことが出来ないのは遺憾として、有志を募り設立の運びとなりました。設立当初から「漸次其規模ヲ拡張シ他日松本文庫創設ノ素地ヲ開ク」とされていたように、学校内から公的な図書館へと発展させようという構想があったことも見逃せません。

### ❷ 開智学校ではじまった新たな取り組み

開智学校では教育に関する先進的な取り組みが多く行われています。教育課程に明記されるより早い段階で、低学年の小学生に図画教育をはじめるといった取り組みもその一つです。

また、子守教育のほかにも、特別な事情をもつ子どもたちへのアプローチを積極的に行っています。体の弱い子を夏休み期間中近くの森で遊ばせて



昭和8年(1933) 裏町特別学級(教室)

心身の健康増進を図る林間保育や、芸妓の修行に出ている子たちなどを対象にした裏町特別学級といった取り組みがなされました。

大正8年（1919）にはじまった林間保育は、その設置目的に「虚弱なる」子どもを捨て置かないためと書かれています。夏休みの内の30日前後、20～30人の子どもを引率し、自然の中で一日遊ばせる教師の苦労は多大なものがあったと思われます。子どもにも「私たちをあそばせて 先生一人ははたらいて ほんとに先生ごころうだ」などと歌われているほどです。しかしこの苦労のかいあってか健康状態が良好になった子が多いという報告が残されています。

### ❸ 学都松本の礎

このように、開智学校誕生後の施設や取り組みは、学校の教育環境を良くしようとする教員を中心とした大人たちの熱意から生まれています。学都松本の屋台骨となってきた開智学校ですが、本当の礎は各時代の学校に関わる人々の子ども達への思いといえるのかもしれませんが。

今回の記念展では、その全てをご紹介することはできませんが、上で紹介した事柄や一市一校制など、特徴的なものを中心に展示します。また、成城学園創設者で近代教育の指導者澤柳政太郎が開智小学校で学んでいた縁から、成城学園より資料をお借りし、開智学校との関わりを中心に澤柳を紹介する展示も設けます。

開智学校開校140周年記念のフィナーレを飾るこの記念展、ぜひご覧ください。

（重要文化財旧開智学校校舎 学芸員／遠藤正教）

学都松本の礎 — 近世・近代、学びの場  
「開智学校からはじまった近代の学び」

2月1日㊤～3月16日㊤

【会場】重要文化財旧開智学校校舎 【観覧料】通常観覧料

学都松本の礎 — 近世・近代、学びの場

「崇教館の歴史を探る～松本にあった藩学～」

江戸時代、松本藩の藩学であったとされる「崇教館」。その歴史に迫るとともに、現代、私たちの周りにある学びの場を見つめ直します。崇教館で使用されたと考えられる教科書など、松本市に残された史料を中心に各種関係品を紹介します。

会期 2月1日(土)～3月16日(日)  
会場 松本市立博物館  
2階特別展示室  
観覧料 通常観覧料

「開智学校からはじまった近代の学び」

開智学校から松本市の博物館や図書館、幼稚園などが誕生していった様子や、子守教育・林間保育などの特徴的な取り組みを紹介します。また、開智学校で学んだ澤柳政太郎もあわせて紹介します。開校140周年記念展の最後を飾る展示です。

会期 2月1日(土)～3月16日(日)  
会場 重要文化財旧開智学校校舎  
観覧料 通常観覧料

松本市立博物館から ☎0263-32-0133

「道祖神祭り・コトヨウカ行事  
—市民学芸員による民俗調査発表—」

平成25年2月から3月におこなった市民学芸員による民俗調査の成果を写真パネルとともに発表します。

会期 1月3日(金)～1月20日(月)  
会場 松本市立博物館2階特別展示室  
観覧料 通常観覧料

ジオラマコーナー展「新春を告げる馬」

平成26年の干支は午です。干支にちなんで、人と馬のかかわりを、所蔵資料や松本周辺の資料をご覧いただきながら紹介します。

会期 1月3日(金)～1月31日(金)  
会場 松本市立博物館1階ロビー  
観覧料 通常観覧料

年中行事シリーズ「まゆ玉サービス」

日時 1月14日(火)10時～なくなり次第終了  
会場 松本市立博物館1階ロビー

歴史の里から ☎0263-47-4515

歴史の里写真展Ⅱ

歴史の里の景観や1年間の行事を写真で紹介いたします。

会期 12月14日(土)～2月23日(日)  
会場 歴史の里 旧長野地方裁判所松本支部庁舎  
観覧料 通常観覧料

考古博物館から ☎0263-86-4710

ショーウィンドー展  
「大発見から40年!弘法山古墳のたから」

大名町通りの八十二銀行ウィンドーギャラリーで、考古博物館で展示している弘法山古墳出土資料を写真パネルで紹介いたします。

会期 1月13日(月)～2月7日(金)  
会場 八十二銀行松本営業部 1階  
ウィンドーギャラリー  
観覧料 無料

時計博物館から ☎0263-36-0969

平成26年 松本あめ市歴史展示  
「祝いを告げる大轡(おおのぼり)」

会期 1月4日(土)～2月2日(日)  
会場 松本市時計博物館 3階企画展示室  
観覧料 無料(ただし、2階常設展は有料)

はかり資料館から ☎0263-36-1191

企画展「中町今昔物語」

松本の商業の中心地であった中町の明治以降の変遷を写真や資料で紹介いたします。

会期 1月11日(土)～2月11日(火)  
会場 松本市はかり資料館  
観覧料 通常観覧料

重要文化財馬場家住宅から ☎0263-85-5070

内田のおんべ祭り見学会

重要文化財馬場家住宅周辺で行われている「内田のおんべ祭り」(市無形重要民俗文化財指定)を見学します。

日時 1月14日(火) 正午～午後4時  
参加料 200円  
定員 10名  
その他 行程はすべて徒歩での移動となります。  
申込み 馬場家住宅へ

旧制高等学校記念館から ☎0263-35-6226

第124回 サロンあがたの森  
「素敵な憲法に乾杯!  
～フツ～の人がリッコーホ?」

東日本大震災をきっかけに、平和や環境問題などの市民運動に取り組むようになった講師から、次の世代のために今自分たちができることは何か、お話いただきます。

日時 1月11日(土) 午後1時30分～4時  
会場 あがたの森文化会館 1-5教室  
聴講料 無料(申込不要)  
講師 神津ゆかり氏(赤つぶの会代表)

窪田空穂記念館から ☎0263-48-3440

空穂生家百人一首教室

日時 1月11日(土) 午前10時～正午  
会場 窪田空穂生家  
参加料 無料  
講師 寺沢尚武氏(県スクールカウンセラー)  
申込み 当日までに電話で窪田空穂記念館へ

松本民芸館から ☎0263-33-1569

企画展「アフリカと中南米の民芸」

「美に国境はない。」丸山太郎の言葉の一節です。収蔵品の中から民族色豊かなアフリカ・中南米の品々を展示いたします。

会期 1月28日(火)～4月27日(日)  
会場 松本民芸館  
観覧料 通常観覧料



アフリカ  
ローデシアの枕  
(木工)

体験講座「楽しい!やしようま作り」

「やしようま」はお釈迦様の命日のお供え物で、米粉を蒸し、絵柄をつけて作る美しい食べ物です。

日時 2月2日(日) 午後1時～3時  
会場 下金井公民館  
参加料 500円(材料費)  
定員 20人  
対象 小学生以上  
講師 横山律子氏(郷土料理研究家)  
持ち物 タオル、エプロン、マスク  
申込み 松本民芸館へ

ミュージアムショップ通信

平成26年 甲午  
「宝船 七福神と干支ピンバッジ」  
を販売します



毎年恒例の縁起物「宝船 七福神と干支ピンバッジ」を販売します。

価格 1個 600円(税込)  
場所 松本市立博物館  
松本市時計博物館  
期間 松本市立博物館では1月3日(金)から、松本市時計博物館では1月4日(土)から販売を開始します。  
なくなり次第販売終了となります。

あとがき

「馬」のキーワードを資料管理システムに入力したら、本市の博物館には馬に関する資料がたくさん収蔵されていることがわかりました。人と馬のかかわりの深さを物語っているのでしょうか。自宅前の馬頭観音に花を手向けようと思いました。(K.U)

あなたと博物館 No.190

発行/平成26年1月1日 編集・発行/松本市立博物館  
〒390-0873 松本市丸の内4番1号 Tel.0263-32-0133 URL:http://www.matsu-haku.com  
e-mail: mcmuse@city.matsumoto.nagano.jp 印刷 川越印刷株式会社